



くれ

1025号

2026年 3月 19日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行

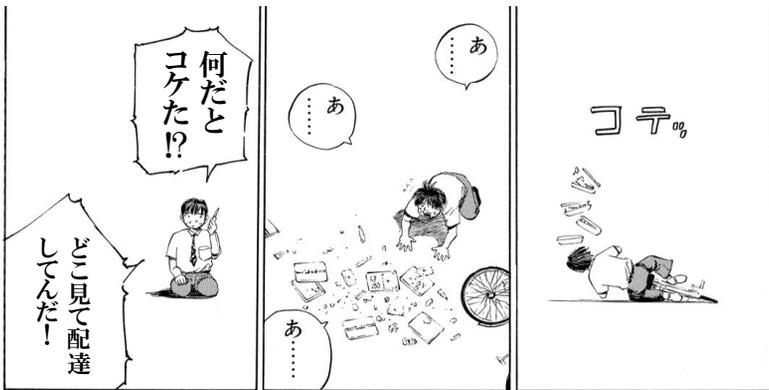


←中国地本HPへ
PC・スマホ等からこの
情報が閲覧可！



メールはこちら→

責任は重く給与は安い



ブラックジャックによろしく 佐藤秀峰

今後の予定

- 3月21日(土) 14:00~
広島県労協春闘集会
東区民文化センター
- 3月24日(火) 17:00~
第2回地本みらい講座実行
委員会

きまず。しかし、仕事の厳しさは変わらないまま給与が下がり、正当な評価もされないとなれば、働く意欲が低下するのは当然です。

この回答を見て、社員の家族や子どもたちがどのように感じるのか、会社は真剣に考えたことがあるのでしょうか。

仕事はこれまで以上に厳しくなる一方で、給与は下がり、正しい評価も行われない——このような状況を、このまま黙って受け入れてよいのでしょうか。

今こそ、現場の実態に向き合い、社員が安心して働ける職場環境と処遇の改善を実現することが必要ではないでしょうか。

郵政ユニオンは決して諦めず、皆が明るい顔で毎日仕事ができるよう、今春闘を勝利することに全力を注ぎます。

労働と対価の不均衡 過酷な現場を知れ

集配の現場では、年々仕事量が増え続けています。特に追跡付きの郵便物やゆうメールは、想像以上に手間と時間がかかります。ポストに入らない郵便物も多く、そのたびに対面での配達が必要となるため、配達作業の負担は確実に増えています。

さらに昨年の区画調整により、一人が担当する配達エリアも広がりました。それにもかかわらず人員は減らされており、いわゆる減配置の状態です。業務を回しているため、一人当たりの配達時間や作業量は確実に増加しています。現場の社員は日々、時間に追われながら業務をこなしているのが実態です。

私たちはロボットではありません。長時間の業務による疲労もありますし、精神的な負担も大きいものです。しかし現場では、これまでも何度も指摘してきたように、時間前着手や休憩時間を削つての作業が常態化しています。

配達中に休息を取つてもよいという建前はありませんが、実際には休息を取れる状況にある社員は決して多くありません。現場はまさに、社員が自分の体を削りながら仕事をしていることで何とか成り立っている状況です。それにもかかわらず、この現状を改善しようと

する会社の姿勢が見えないことに、強い憤りを感じています。

このように現場の社員が秒単位で働いているにもかかわらず、春闘要求書に対する会社の第一次回答は、定期昇給は実施しない、ベースアップも実施しない、さらに一時金も3・5ヵ月へと減らすという、到底納得できない内容でした。このような回答で、社員のモチベーションが上がると本当に考えているのでしょうか。

仕事が厳しくても、ある程度の給与や処遇があるからこそ、社員は家族のために頑張ることができ

ます。しかし、仕事の厳しさは変わらないまま給与が下がり、正当な評価もされないとなれば、働く意欲が低下するのは当然です。

この回答を見て、社員の家族や子どもたちがどのように感じるのか、会社は真剣に考えたことがあるのでしょうか。

仕事はこれまで以上に厳しくなる一方で、給与は下がり、正しい評価も行われない——このような状況を、このまま黙って受け入れてよいのでしょうか。

今こそ、現場の実態に向き合い、社員が安心して働ける職場環境と処遇の改善を実現することが必要ではないでしょうか。

郵政ユニオンは決して諦めず、皆が明るい顔で毎日仕事ができるよう、今春闘を勝利することに全力を注ぎます。